≪学習問題≫

いけに　あひるが　17わ　いました。そこへ　6わ　はいって　きました。また，4わ　はいって　きました。あひるは　なんばに　なりましたか。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・1年「3つのかずのけいさん」で，3口の数の加減を学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・2年「ふえたりへったり」で，数量の増増，増減の考え方を学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・（　）を用いて加法の結合法則を用いる経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・増え方を数図ブロックの操作で表す学習をしている。

教材研究ノート№2-A-11

≪学習問題≫



主眼

授業計画･実施記録

②見通し：増えて増えるから17＋6＋4の式で表せると思う。

 →　増えた分を順に考えるだけでなく，増えた分をまとめて考えることはできないだろうか。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題：数図ブロックを動かして，増えたあひるの様子を表して，17＋6＋4の計算の仕方を説明しよう。

③個人追究：数図ブロックを使って，順にたす方法とまとめてたす方法を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「2つの方法を，数図ブロックを動かして説明しよう。」

→「順に増えた分は2回で，まとめて増えた分は1回の操作で表すことができる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「順にたしても，まとめてたしても同じなのだろうか？」

→「順にたす17＋6＋4も，まとめてたす17＋10も答えは同じになる。」

　「増えた分は10わだから，順に2回でたしても，まとめて1回でたしても，増えた10わには変わりはない。」

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・順にたしてもまとめてたしても，同じことをしている。

・まとめてたす場合には，（　）を使うと，（　）の中を先に計算することが分かった。

⑥定着･活用問題

犬が12ひきいました。そこへ，7ひききました。また，4ひききました。犬はぜんぶで　なんひきになりましたか。

2とおりの仕方で計算しましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握の場面では，教科書の挿絵を用いて増える分に着目させ，順にたす方法とまとめてたす方法の両方の見通しを持たせたい。

・共同追究で，数図ブロックの操作をもとに，まとめてたす方法を確認し，順にたす方法を区別するために，まとめてたす方法は（　）を用いることを確認するとよい。

≪定着・活用問題≫

【板書計画】